

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 理工学部 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.2 教育課程・教育内容 |
| 小項目 | 6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 要素 | 必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院) |
| 小項目 | 6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 |
| 要素 | 学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 科目の先修関係を2011年度中に図表化し、科目の配置に問題がないか点検し、学生に履修用資料として公開する。 | →当該資料、およびその点検と公表の状況。 | B | B | / | / | / |
| 2. 大学での授業理解に必要な学力が不足する学生に対し、これを身につけさせるための仕組みを整備する。 | →リメディアル教育プログラム、および2013年度の改訂カリキュラム。 | C | B | / | / | / |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| 小項目6.2.1 | 6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) カリキュラムは非常に体系的かつ充実していると考え、様々な観点からこれを点検して行く方針である。各学科ごとに授業科目間の依存関係を明示した資料を作成した。この資料は授業科目の順次性や体系的性の点検や学生の履修選択の参考資料としても利用が可能であるが、学科ごとの性格もあり授業科目間の依存関係の意味合いが異なる面があるので、現状では統一的には表示できていない。 |
| ☆ 小項目6.2.2 | 6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 学士課程教育に相応しい全般に高い授業水準を維持している。初年次教育への準備として、一般入試以外の入学生には入学前教育を行い、入学時の数学の学力不足に対応するため、2010年度から入学生を対象に「数学基礎力テスト」に基づく数学リメディアルプログラムを試行している。2010年度は物理学科、情報科学科、人間システム工学科の3学科で実施し、2011年度は出題範囲を広げるなどの改良を行い、物理学科、化学科、生命科学科、情報科学科、人間システム工学科の5学科で実施した。また、2011年度のFD講演会では物理学のリメディアル教育に関する講演会を開催することが決定している。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目6.2.1 | |
| ★小項目6.2.2 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目6.2.1 | |
| ★小項目6.2.2 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目6.2.1 | |
| ★小項目6.2.2 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目6.2.1 | |
| ★小項目6.2.2 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○前項6.1.2に関する「現状の説明」によれば、教育課程の編成・実施方針の明文化にいたっていないとのことですが、6.2.1, 6.2.2の「現状の説明」では、明確な方針のもとにカリキュラムが編成されている印象を受けます。暗黙の了解事項として存在している現行の「方針」と、明文化されようとしている「方針」との間に齟齬はないのでしょうか。

【学内委員】

○カリキュラムの体系化については、各学科において科目間の依存関係を明示した資料が作成されるなど積極的に取り組んでおり、評価できます。ただ、さらなる積極的な利用もできるとのことなので、今後の一層の充実が期待されます。学士課程教育において、全般的に高い教育水準が維持されていることも評価できます。数学のリメディアル教育教育が積極的に行われ、功を奏している点も評価できます。今後、他科目での実施結果に対しても期待が持てるものだと思います。

○カリキュラムは非常に体系的かつ充実しているとのことですが、教養教育、専門教育の位置づけはどのように示されているのでしょうか。

○リメディアル教育に積極的に取り組む姿勢が感じられます。

○昨年度、改善方策で示されたリメディアルプログラムが実施、拡充されています。PDCAサイクルが確認できます。

○各学科ごとに授業科目間の依存関係を明示した資料作成は評価されます。

○各学科ごとに授業科目間の依存関係を明示した資料作成、リメディアル教育など、努力されています。なお、両小項目とも、大学基準協会の留意すべき事項などに沿った概略説明を、簡単でいいので、示すことは出来ないでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

○達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

6.2.1(現状説明)

★ 教育課程の編成・実施方針が未設定のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた専門教育・教養教育の位置づけを述べることができない。しかし、現状のカリキュラムでは理工学部目的に基づき、専門教育の科目は自然科学の基礎知識を身につけた上で、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力、未知の問題を発見し解決していくことが出来る能力に優れた人材を育成するように、また教養教育の科目は幅広い教養とキリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てるように配当されている。